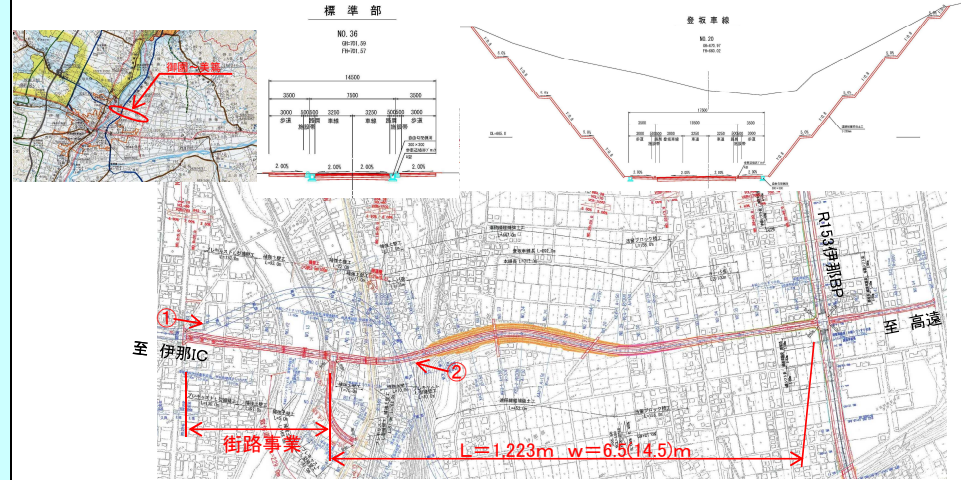


(様式2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		道路改築事業		路河川名等	(主)伊那インター線					
事業毎の通番		9	市町村名	伊那市	箇所名(ふりがな)	御園～美薨(みその～みすず)				
事業概要	事業目的	主要地方道伊那インター線は、伊那インターより伊那市街を経て旧高遠町を結ぶ東西軸として整備を期待されているが、当該箇所付近には天竜川河岸段丘が位置しその比高差により東西軸の道路整備は進んでいない。近年、美薨地区の工業団地および宅地開発により交通需要は増加しており、今後の国道153号伊那BPの進捗によりさらなる増加が予想されている。このため現153号より伊那BPまでを当該計画により結ぶことにより、伊那インター、伊那市街、伊那BPとを結び円滑な交通と地域の防災機能を確保するために早期の改良が求められている。								
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	5-2 快適で暮らしやすいまちづくり(暮らしを支える道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法					
	関連する事業、計画等	伊那市都市計画区域マスタープラン 伊那バイパス								
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:8,200台/日(H42推計)								
	着手年度	平成27年	事業期間	11年間		事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完成年度(見込み)	平成37年	費用対効果	2.0		国庫	その他	県債	一般財源	
	全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=1,223m W=6.5(14.5)m				5,500,000	3,300,000	1,980,000	220,000	
	年度事業内容(主な工種)									
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	災害に強い道路(緊急輸送路・バス路線) 安全な道路(通学路)							
		間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進							
評価の視点	必要性	○代替道路の有無：代替道路がない ○交通結節点アクセス：中央自動車道伊那インターチェンジに通じる道路(1次アクセス) ○医療・福祉・教育施設との連携：伊那中央病院との連携が發揮できる道路(1次アクセス) ○地域の活性化：インターチェンジと上野原工業団地を直結し、活性化に資する						評価		
	重要性	○関連計画、重点施策との整合：しあわせ信州創造プラン ○緊急輸送道路の路線指定：緊急輸送路(1次)に路線指定 ○地域指定：地震防災対策強化地域						評価		
	効率性	○費用対効果(B/C)：2.0 ○事業期間：11年 ○工法等の比較検討：コスト縮減 ○他事業との連携：R153伊那BP・街路(環状北線)事業						評価		
	緊急性	○近年の交通事故件数：0件(新設道路) ○渋滞及び騒音・振動の緩和：移動性阻害箇所(伊那市中央区交差点)の緩和 ○歩道整備：歩道整備 ○現況の幅員：計画ルート沿いの市道は狭隘						評価		
	計画熟度	○事業情報の共有：関係者を中心に周知(H24.8都計道見直しとして構想を地元役員に説明、H26.2.28地元役員に説明)						評価		
		○地域の取り組み：協力的である(伊那市要望) ○地域の合意形成：事業目的について、合意形成が図られている ○住民との協働：住民の関与については今後						評価		
部意見	事業の必要性、重要性が高いが、地域の合意形成など計画熟度が低いため、事業化を見送りたい。		行政改革課意見	必要性、重要性が認められる。		評価結果	総合評価			
							B			

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)



【整備の必要性がわかる状況写真等】



①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	(主)伊那インター線は、伊那インターと旧高遠町を結ぶ東西軸として整備をすすめてきており現在は国道153号(現道)までの整備が完了している。現在整備中の国道153号伊那バイパスの進捗により、BPまで延伸し接続することにより、伊那市の環状道路網機能、周辺の土地利用を考慮した事業計画の策定が急務になってきている。	
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	伊那市から毎年強い要望があり、H21伊那市幹線線道路網見直し計画の中でも、重要な路線として位置付けられ、早期の着手の要望があがっている。	
③事業説明等の経緯	H24.8月 伊那市から都市計画道路見直しとして、地元役員に構想を説明。H24伊那市の都市計画審議会で都市計画決定の変更について、調査審議実施。 H26.2.28 地元関係区役員に計画ルート案について説明。	
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	長野県総合5カ年計画(調査箇所) 伊那市都市計画マスタープラン R153伊那BP・街路(環状北線)事業	
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	構造物ではなく、土羽構造による緑化を図り環境へ配慮し、極力、現地形を利用するルートを選定する。また、法面緑化等の種子配合について在来種を使用することにより周囲の植生に配慮する。	
⑥地域活性化への影響と配慮	本路線は、伊那市中心市街地と、高遠地区・長谷地区等の山間部及び伊那インターとを直結する東西方向の骨格的路線であり、山間地域の生活支援や市街地の活性化に寄与するとともに、中央自動車道伊那ICとR153伊那BPとを結び高遠城址公園及び南アルプス方面観光地へアクセスする路線でもあることから、観光面での地域活性化にも寄与するものである。	
⑦その他	特になし	
	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 35° 50' 36" 東経:E 137° 58' 42"